

「市川市 考古博物館」松本太郎さんから頂いた情報

(1) 資料の概要 資料名:直刀(鉄製) 時代:飛鳥時代(古墳時代終末期)

全長:86cm ほか:八窓〈はっそう〉の鐔〈つば〉とともに一回り大きな台板に針金でぐくりつけられている。

鍔〈はばき〉が付属するほか、峰に木質が付着していることから、鞘は木製であったことがわかる。

X線写真の撮影により、象嵌はないが鐔の縁に銀が巻いてあることが確認できた。

(2) 情報提供を呼び掛ける目的

市川市の古墳の多くは国府台や真間に分布している。そのなかでも概要を把握できている 前方後円墳は3基だけである。

国分ではこれまで古墳時代の遺構がわずかしかみつかっていないことから、国府台や真間に隣接する地区も視野に入れつつ、出土地である4基目の前方後円墳の位置を明らかにしたい。

※古墳の多くが小型円墳であるのに対し、発祥以来の伝統的形態で規模が大きい前方後円墳は格上と考えられる(上位の有力者が埋葬されている)。

(3) 欲しい情報 ●「山崎直三郎」さんの子孫 ●直刀が出土した「瓢塚」の場所

●以上2件に関連する情報

(4) いきさつ

① 明治41年(1908)に山崎直三郎氏の宅地にある「瓢塚」(前方後円墳?)を崩している時に直刀を発見した。

※直刀台板の由来書き「明治四十一年 大字国分 山崎直三郎方宅地内ノ瓢塚
地均シノ際發見」

② 県内在住・美術品等収集家A氏の手に渡る。①の由来書きはA氏によるものか。

- ③ A 氏の相続人・実子と思われる B 氏が、出土土地である市川市に寄付する意志を固めて、令和 3 年 1 月に考古博物館へ連絡する。
- ④ B 氏から送られた資料の写真をもとに、有識者や寺院に相談しつつ、真贋や年代、由来書き等を検討する。
- ⑤ 6 世紀後半の真作と判断して B 氏と協議を進め、令和 3 年 12 月に寄付を受け入れる。
- ⑥ 有識者に実物を見ていただいて年代を飛鳥時代に修正したほか、X 線撮影により上述の成果を得た。これらの成果をもとに令和 5 年 8 月から翌年 7 月まで、考古博物館ホールで小企画展を実施した。
- ⑦ 小企画展の終了後に、近隣の公立学校に巡回展示して二年目である。展示をみた市民から情報が寄せられたり、国分小学校の卒業生名簿を閲覧したが、有力な情報はまだ得られていない。
- 今後は自治会等を通じた情報提供依頼や登記簿調査などを検討する。

(4) 補足

由来書きを素直に解釈すれば明治時代の大字国分に住む山崎直三郎さんの所有地に前方後円墳が存在し、崩した際に出土したことになります。

国府台周辺の古墳群はかつて大字国府台や大字真間であった地区に位置しています。この記録からそれらとは別物の前方後円墳の存在が推測できるうえに、大字国分は古墳や古墳時代の遺構が極めて少ない地区ですので、ちょっとした驚きです。

さらに、子孫が同じ土地を今もお持ちで、お目にかかることができれば古墳の位置を特定できるかもしれない。そんな淡い期待を抱いて、コロナ禍のさなかに入づてに情報を集め、古い住宅地図をしらみつぶしに探し、主なお寺さんに過去帳のお

名前まで尋ねました。

しかし調べても調べても山崎直三郎さんにたどりつけずに残念ながら調査は難航しています。

山崎直三郎さんのお名前、大字国分の「塚」や刀の出土を聞いたことがある方には、ぜひ情報を寄せいただきたいと考えています。